

1. 日時 令和7年2月14日（金）15:50～16:20
2. 場所 校長室
3. 出席者 【委員】
PTA 副会長
大阪大学量子情報量子生命研究センター特任教授
六稜同窓会事務局長
六稜同窓会学年理事
【事務局】
校長、教頭、事務長、首席2名、教務部主任、進路部主任、指導部主任、
記録2名

4. 議事次第

（ア）校長挨拶

ぜひ忌憚のない意見をいただきたい。

（イ）事務局より

教頭より

授業アンケート結果に関しては、経年変化としては全体的に昨年度よりほぼすべての項目で上昇傾向が認められる。教科ごとならば数学が顕著である（今年度と昨年度の第二回のアンケート比較より）。生徒たちは他のすべての教科に対して好意的であり、下がっている項目もわずかにあるが誤差の範囲である。学年別に見ると、2年生からの評価が高い。教員との相性が良かったか。

進路部長より

共通テストについて、情報Ⅰが入って1000点満点になったり、時間増の科目もあったりと生徒にとっては負担増だったが、学年平均は830点程度で大健闘である。900点以上も40名、800点以上の生徒も6割以上であった。共通テストそのものは実施2年目で難易度の上昇が予想されたが、本校としては、文章量の増加などにも対応できている。通常の学校の授業で対応できているので、今後もこの傾向が継続される様に努力していきたい。

首席より

自己診断の集計に関して、生徒のおおむね8～9割が肯定的な回答であった。しかしながら、1, 2, 3年生と学年が上がるごとに肯定的な回答が減っている。経年変化としては昨年度と今年度を比較すると、今年度は肯定的な回答が減少している。今後原因を精査したい。記述式の回答については、施設の不便さ（西端の教室からトイレが遠い、靴箱から教室まで濡れてしまう、3年生の渡り廊下が寒いなど）を訴えるものが散見された。少数だが教員によって教え方に差があるという意見もあった。

保護者についても、学年があがるごとに肯定的な回答が減少している。しかし「北野に通わせて良かった」という3年の保護者も多い。経年変化を見ると、今年度は「どちらとも言えない」という選択肢を「わからない」に変更した結果、肯定的な回答の増加に傾いた。記述式の回答については「学校からの情報が不足している」「進路や教務の生徒向けの情報が保護者まで伝わらない」「部活動の負担が大きい、部活指導が丸投げではないか」などが見られた。「教職員間の指導力の差」については生徒以上に敏感であるようである。防災対応に関して懸念する回答も見られた。

教員の回答については、教員数が 50 名程度と母数が少なく統一した傾向が見えにくい。

自己診断を google フォームで実施していることが、便利になったという意見が多いが、回答率が悪くなり 7 割強に留まっている。紙ベースで実施していたころの方が回収率は高かった。また、記述式に関しては厳しい意見が増えた様感じており、これも実施形態による可能性がある。

校長より

学校経営計画について、教育委員会からは記載内容を変えるような指摘はなかった。

(ウ)協議・意見交流

北野委員より

昨年度まで情報の評価が低かったが今年度は上昇している。共通テストが実施された影響はあるのか。

教頭より

今年度より担当教員が変わった影響があるのかもしれない。しかしながら 1 人の教員で 40 人の生徒に PC スキルを完全に習得させるのは厳しいものがある。情報の授業は 1 年生で行うのみで、それ以降の学年では授業はないため、今年度は共通テスト対策を兼ねて夏休みに 3 年生向けの情報の講習を行った。共通テストの平均点は 87 点でまずまずである。ただし、今年は情報 I 実施の 1 年目なので、来年度から難易度があがる可能性はある。

阪大特任教授より

アンケートで声があがっている施設や安全面に関しては、学校としてアクションにつなげていく必要があるかも知れない。予算面等の問題もあり難しくあきらめてしまっている部分すらあるが、埼玉の下水道事故から見るに、身の回りの危険な部分を少しずつ改善・補修していく努力は必要ではないか。

同窓会事務局長より

自己診断を google フォームで実施すると回答率が下がるとともに、記述式回答の内容が厳しくなったが、匿名性が高くなったことが原因かも知れない。本音であるのかどうかを継続して探っていく必要があるかも知れない。施設面に関しては、同窓会としても 150 周年事業で同窓会館を新設したが、校舎も新設してから 30 年経過しているため、老朽化が見られる部分もあり、50 年経過したら建て替えるなど、可能であれば同窓会としても後押ししたい。

同窓会学年理事より

google フォームでの自己診断の回収率は気になるころではあるが、他校と比較しても保護者の関心は高いように感じている。記述部に関しては、紙ベースで書くよりは書きやすいから、直情的な意見が出る面があるのではないかと。紙ベースで実施していた時代に自分のことを思い返しても、紙に文字で書いている時は（想像して）丁寧に書いていた様に感じる。

施設の不便さについては、ハード面は難しいが、何年かの計画で改修していったり、ソフト面でサポートしたりすることは可能かも知れない。

教員差に関しては各教科に還元しているか？

首席より

授業見学等を実施して、研鑽を積んでいる。保護者は子供である生徒の断片的な言葉をそのまま受け取っ

てしまっている面があるのではないか。

同窓会学年理事より

授業参観などを見て実際に感じている保護者もいるし、子供の言うことを鵜呑みにしている保護者両方いる。

P T A 副会長より

生徒と保護者の感じていることが違うことは現にある。しかし、ある教科でテスト範囲が終わっていないクラスがあるにも関わらず、そのままテストが実施された科目があり、そういったことは保護者の間でも少し話題になった。

公開されている情報は多いが、欲しい情報になかなかたどり着けない。学校説明会に参加した保護者から聞かれたこともある。

校長より

施設に関してトイレや3年生の渡りろうかなどは解決のしようがない。こういった要望は校長として他校でも経験したが、建築法が変わったことなどがあり、小さな補修が不可能になっている。本校でも要望に応える対策は色々に考えたが、教室を減らすしかない。しかしながらそれは現実的には不可能だ。府立高校は財政事情により70年間は建て替えないことになっている。本校の建て替えは非常に先になる。

阪大特任教授より

建て替えることは無理でも、補修をする必要はあるかも知れない。本校が率先してモデル校として何かできないか。耐震化の時は必要性が高かったためか、弾力的にできた様に記憶している。

校長より

現在、府としてはトイレを整備することを、事情の許す学校では優先的に行っている。エレベーターなどは建築法が変わって実施できないため、困っている高校も多いのではないか。

(エ) その他

教頭より

学校への意見書の提出はなし。